

「落語と私」 その八

三代目 橋ノ百圓

前号の約束通り「落語豆知識」から、書き始めます。

「落語豆知識」

※「鸚鵡返し」

人の言葉を真似する鸚鵡の様に、旦那、隠居さん、友達などの言い回しや、行動を真似ようとして失敗する噺です。皆さんご存知の「時そば」が、そうですネ。他にも、「新聞記事」「町内の若い衆」「つる」など沢山在ります。6月の権太楼師匠も季節がら、「青菜」を演じましたが、これは、私がお願いした訳でもなく、たまたまそう成ったので、やはり、先代小さんの形でしたネ。外に噺のククリ方には、放送禁止用語ですが「一人気狂い」と呼ばれている「湯屋番」「野ざらし」「不動坊火焰」など、周りの人を気にせず一人でパァパァ言っている噺ですが、自分の出番の前に「新聞記事」が出ていれば「青菜」は演らないと思います。この様に、前出演者の噺を記録しておくのが「根多帳」で、楽屋に入ると、前座がこの帳面を持って来てくれますので、噺が付かない様にする訳です。

七、蔵前駕籠

暮の寒い頃の噺です。扇馬師匠は、五代目小さん師匠から教えてもらったと聞いています。幕末の江戸が舞台で、原話は、江戸版「浮世はなし鳥」に載っているので、江戸の噺です。お客様の想像力に頼る噺で、駕籠も浪人も時代劇に出て来ますが、一人ひとり捉え方が違いますからネ。

「あらすじ」

幕末の江戸は、勤皇党、佐幕党が互いに覇を争い、世の中が殺伐としていた頃、夜になると、蔵前通りの一体に浪人者の追剝が出て、吉原行きの駕籠を止め「我々は故あって徳川家に味方を致す浪士の一体、軍用金にこと欠いておる。命まで取ろうとは申さん。身包み脱いで置いて参れ！」と来た。これが為に暮六ツの鐘を聞くと、吉原に向けて駕籠を出さないと言う決まりになる。サア、そうなる江戸ッ子には、跳上り者がおりますから、危い処を無理にと、宿駕籠の老舗「江戸勘」と交渉。駄賃は倍出す、酒手はタンマリ弾むからと頼み込むが、頑として出せない！と断られた。そこで「分かったヨ、この江戸勘てエ駕籠屋はヒッ腰のたつ若者が大勢揃っていると聞いて来たんだが、何ンでエ、腰抜けばかり揃ってやら！」と啖呵を切ると、駕籠屋の若い者が「追剝が出る所までだヨ」との約束で交渉成立。駕籠に乗る前にこの客は、着物をスッカリ脱いで禪一張、これを小さく畳んで紙入れ（財布）と一緒に駕籠の座布団の下に隠し、その上にドツカリ胡座をかいて「サア支度は出来た遣ってくれ」。これを見た江戸勘の主人が「ハァ、この方は、お女郎買の決死隊だナ」と妙な褒めよう。駕籠を出して蔵前通りの権寺まで来ると、案の定、五、六人の浪人者、駕籠昇きは逃げちまう。駕籠を囲んだ浪人者の一人が、お決りの口上を言うが、客が出て来ないので、仲間に駕籠に強盗提灯を当てさせ「命まで取ろうとは申さん。身

包み脱いで置いて参れ！」と刀の先で駕籠の垂を上げると、中には素裸の男が腕組をして、こちらを睨んでいるので「もう済んだか。」正に想像の世界です。お客様の頭の中に、裸の男と、狐に摘まれた様な浪人者が浮んでくれば、有難いです。落ちは「※仕込落ち」ですネ。この噺を演った次の日は、必ず腿の筋内が痛くなります。

「扇馬師匠の説明」

「江戸勘に来る客は、江戸っ子の職人、主は老舗の商人、駕籠昇きは、威勢は良いが、少々臆病者、浪人はやは

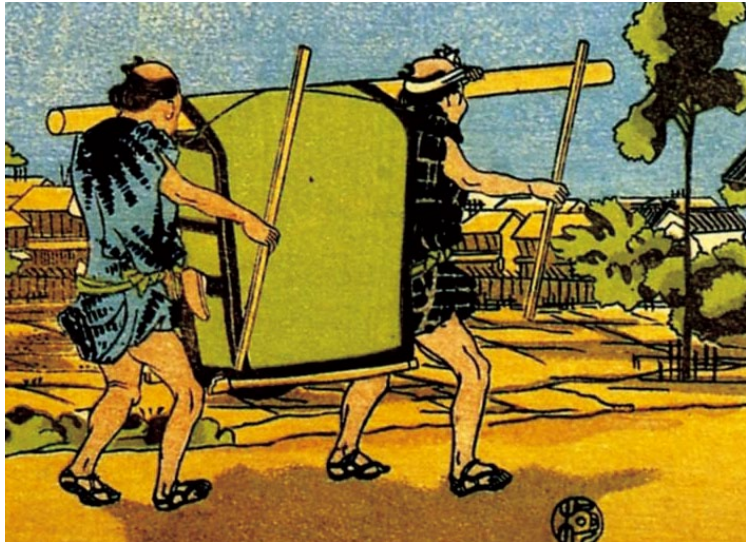
り、侍らしく、登場人物を描き分ける事が大事だ」と言われました。駕籠を担ぐ時には重そうに、また、前棒と後棒の違いをハッキリ出す、終盤の盛り上りは、少し芝居懸りに演る様に教わりました。先代の正蔵師匠は、駕籠の垂を巻る浪人は、立膝になっていたヨとも言われましたが、これは参考の為に、と言う事です。

八、鹿政談（春日の鹿）（鹿ころし）

これは、お白州ものです。お裁きと言うと先ず頭に浮ぶのが、大岡越前守ですが、この噺は、根岸肥前守が裁きます。舞台は、珍しく奈良、大阪根多ですが、東京でも、古くから演じられていた噺で、浅い出番では懸けられませんが、圓師匠も良く高座に懸けてました。

「あらすじ」

昔、三都の名物を歌に詠んだのが有りまして、江戸の名物は「武士、鰹、大名、小路、生鰯、茶店、紫、火消、錦絵、火事に喧嘩に中ッ腹、伊勢屋、稲荷に犬の糞」大阪が「橋に船、お城、芝居に米相場、揚屋、問屋に石屋、植木屋」京都が「水、壬生菜、女、羽二重、御簾屋、針、寺に織屋に人形、焼物」これに奈良の名物が加わりまして「大仏に鹿の巻筆、霰、酒、奈良茶、奈良漬、奈良茶粥、春日灯籠、町の早起き」奈良は早起きが名物という（中略）中でも特に早いのが、お豆腐屋さん、奈良三条田中町に豆腐屋の六兵衛さんと言う、奈良きっての正直者、早くから豆を碾いておりますと、大きな犬が、キラズ（オカラ）をムシャムシャ食べている、「シィ」と追ったが逃げません、側にあった割木（薪）を放ると、その場に倒れ夜が明けて見ると、これが！例え過ちと言えど殺したる者は死罪と言う「鹿」！正直者の六兵衛さん、この死骸を余所に移すなどと言う事は致しませんで、六兵衛夫婦は、お白州に引き出されまして、奈良奉行根岸肥前守のお裁きとなります。お奉行は、六兵衛の正直に免じて、罪を軽くと思うのですが、六兵衛はこの誘いに乗って来ません。仕方なく鹿の守役塚原出雲に鹿の死骸を検めさせるが「これは角が無いから犬だ」との奉行の慈悲深い言葉を塚原出雲は受け入れず、飽くまでも鹿だと言い張るのを「ならば、六兵衛の件は後廻しにして、先ずは、鹿の飼料横領から正そうか!？」これで塚原出雲も、この死骸を犬と認めたので、奉行「犬を殺した者に罪は無い。一同の者、立ちませい、アア待て六兵衛、その



駕籠昇き

出典：http://s.webry.info/sp/rakugo-fan.at.webry.info/201109/article_1.html

方商売は、豆腐屋じゃナ、キラズに遣るぞ」これに六兵衛が「ハイお陰様で豆に帰れます」チョッと人情嗟でエ感じですネ。お白州ものは、枳根多（講枳根多）が多いので、これもそうかも！？

「圓師匠の説明」

先ず「これは奈良が舞台なので、奈良言葉を遣うのだが、正確な奈良弁は、俺にも解らねエ」と開き直ったのが面白かったです。私も東京に下宿をしていた、京都の人に指導を受けましたが、マアそれらしく言うぐらいしか出来ません。六兵衛さんの人柄の良さ



奈良公園の鹿

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>

と、鹿を殺してしまった時の驚きを、どう出すか、又、お白州での奉行と塚原出雲の遣り取りで、緊張感を出して盛り上げて、ストーンと落す事などを説明してくれました。これは※地口落ちです。圓生は「鹿の餌料」と言います。今はほとんどの人が、餌料と言いますが、圓師匠は「鹿の飼料」（飼育料）と教えてくれましたので、私も頑固に飼料と言います。

「落語豆知識」

※「落ちの種類」

落語は、一落ち、二語り、三仕草と言われるほど、落ちは大事です。

一、地口落ち＝所謂ゴロ合わせ、駄洒落で終わる噺で一番多いです。例「こい瓶」「石返し」 二、考え落ち＝直ぐには解らないが、後から“なるほど”と思うもの 例「清正公酒屋」「千両みかん」 三、反対落ち＝物事、立場が反対で終わる噺 例「穴子で空抜け」「茗荷宿」 四、廻り落ち＝話しが一廻りして落げになるもの 例「猫名」「紀州」 五、とたん落ち＝落げの一言で噺全体が納得して終わる噺 例「明烏」「粗忽の使者」 六、ぶっけ落ち＝お互いに相手の言う事が理解出来ずに終わるもの 例「一分茶番」「権助魚」 七、見立落ち＝見立違いをして落げる噺 例「欠伸指南」「麻のれん」 八、とんとん落ち＝噺を調子良く、とんとんと落す。 例「やかん」「時そば」 九、梯子落ち＝数字を一っずつ上げながら終えるもの 例「一目上り」「不動のご縁日」 十、仕込落ち＝噺の中で言葉の説明を入れてそのもので落す噺 例「お見立」「もう半分」 十一、仕草落ち＝落げを言葉でなく、仕草で終えるもの 例「堪忍袋」「疝気の虫」 十二、間抜け落ち＝いかにも、間抜けに落す噺 例「もぐら泥」「文違い」 十三、夢落ち＝落げが夢で終わり、お客様が「何ァんだ！」の落ち 例「夢金」「ねずみ穴」 十四、冗談落ち＝時間の都合で、噺の途中に「冗談言っちゃァいけねエ」で終わる噺 例 これは、何処でも切れる噺、全てです。

7月2日、公益社団法人 落語芸術協会会長並びに「笑点」生涯司会者である桂歌丸師匠がお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈り致します。